本人のように協力作業を好む者は少ないようである。

「友人と同じ経験をすることが重要である」という考えに対しては44.6%が賛成しているが、23.2%は「わからない」と回答し「どちらでもない」が20.5%いる。個人主義のアメリカ人なのにどうして友人と同じ経験をした方がよいと思っているのであろうか。

「暖かい人間関係より1人でいるのを好む」という項目に賛成しているのは21.4%であり、「わからない」が23.6%いる。また、「どちらでもない」が22.3%いる。1人でいるのを好む人が多いのはやはり個人主義のアメリカ人だからであろう。

「友人とつきあうより読書や映画を好む」という項目には12.8%が賛成しているが、41.4%はそうは思わない。1人でいるのは好むが1人で映画を見たりするのは好まないようである。この項目に関して男女差はみられない。

「私を嫌っている人がいる場所に行くのを気にしない」という項目に対しては「どちらでもない」が最も多く26.4%であり、次が「分からない」の22.7%である。この項目に関しては男女差があり女性の方が気にする者が多いようである。

「よく理解できない場合には質問するより黙っている」に賛意を示すのは20%であるが、最も多いのは42.3%がそうは思わない。また、22.7%は「わからない」と回答している。この項目に関しても男女差がみられる。すなわち、女性の方が男性より黙っている人が多い。しかし、男女共に黙っているより質問する人の方が多い。エリートといえどもわからないことは積極的に質問するようである。

「私は他人を人前で批判するし他人にもそうして欲しい」という考えには不賛成が37.3%で17.3%の賛成より多い。「どちらでもない」と「わからない」もそれぞれ22.7%ずついる。これも男女差があり女性の方が男性より批判を好まないようである。

「初めての場所に行くときには友人と一緒に行きたい」という項目に関しては28.6%がそう思わないが、26.8%はそう思う。「わからない」という回答が22.7%と多い。この項目に関して男女差はない。

「他人に気に入られなくても信じていることを話す」という項目に関しては28.6%は賛成しないが、21.9%は賛成している。26.8%は「どちらでもない」と回答している。この項目にはわずかではあるが男女差がみられる。すなわち、女性の方が嫌われてまで信じていることを話そうとは思わないようである。

以上がアメリカ人エリート達の人生観である。この項目に関してはそれ迄の質問に対する回答とは違って「どちらでもない」とか「わからない」という回答が多かった。

## 3 まとめ

以上アメリカ人エリートの意識を項目別にみてきたがだいたいの傾向はつかめたことと思う。やはりという結果もあるがおやっと意外に思う項目もある。たとえば、エリートはやはり学歴が高く一流の大企業に勤務し役職についている者が多い。この点は日本でも同じであるが違うのはアメリカ人は現在働いている会社に長く勤務しようとは思っていないことである。アメリカ人は転職回数が多く、少しでもよいチャンスがあればすぐにでも転職しようと考えている者が多いのが現実である。これはアメリカではレイオフが頻繁におこなわれるので社員達もいつ解雇されるかわからないと思っており、その前によい所があったら転職しようと考えているのである。レイオフをされてから職を探すのではその間の生活が大変である。しかしエリート達は意外に保守的な者が多い。また、個人主義のアメリカ人は日本のようにグループで働くのは好まないが、集団で働いている場合の方がよい考えがうまれ、また意思決定も集団でした方が個人でする意思決定よりよいと思っている者が多いのである。これは現実に対する批判が含まれていると思われる。

さらに仕事と個人的なこととは切り離して考えている。したがって、給料に家族手当てや住宅手当てが含まれる必要はないと考えているのである。また職場内の上下関係は職場内に限定されていて職場以外ではまったく平等な関係だと考えている。したがって、職場内の上下関係は職場外で